



ジゴキシン: 定量法

—第十六改正 日本薬局方より—

試験条件

検出器: 紫外吸光光度計(測定波長: 220 nm)

カラム: 内径約 4.6 mm、長さ 25 cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度: 30 °C 付近の一定温度

移動相: 水/アセトニトリル混液 (7:3)

流量: ジゴキシンの保持時間が約 10 分になるように調整する。

システム適合性

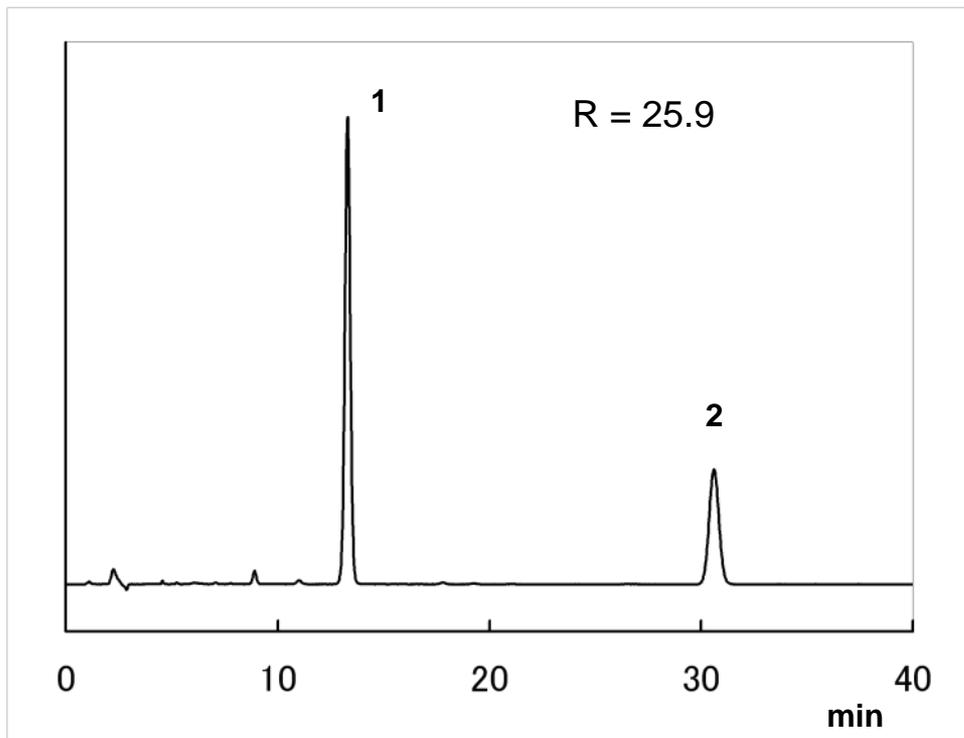
システムの性能: 標準溶液 10 μ L につき、上記の条件で操作するとき、ジゴキシン、内標準物質の順に溶出し、その分離度は 5 以上である。

注) 内標準溶液 パラオキシ安息香酸プロピルのエタノール(95)溶液 (1 \rightarrow 4000)



ジゴキシン: 定量法

—第十六改正 日本薬局方準拠—



Column: TSKgel ODS-100V 5 μ m
(4.6 mm I.D. x 25 cm)

Column temp.: 30 °C

Eluent: H₂O / CH₃CN = 7/3

Flow rate: 1.6 mL/min

Detector: UV (220 nm)

Injection vol.: 10 μ L

Concentration: 50 mg/L (Digoxin)

Samples:

1: Digoxin

2: Propyl *p*-hydroxybenzoate